

武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会（第5回作業部会）

■日時 令和5年5月8日（月） 午後7時～午後9時17分

■場所 市役所412会議室

出席委員：岡部副委員長、木下委員、久留委員、古賀委員、鈴木委員、中村委員、  
箕輪委員、吉田委員、伊藤委員、恩田委員

欠席委員：渡邊委員長

## 1. 開 会

副委員長が開会を宣言し、委員長欠席のため代理で進行を務めること、議事進行の都合上、(2)「その他」の②「中高生世代との意見交換について」を先に議論することを告げた。

## 2. 議 事

### (2) その他

#### ②中高生世代との意見交換について

企画調整課長が、中高生世代との意見交換について報告した。

【副委員長】 申込者32名というのは見込みどおりと考えていいのか。

【企画調整課長】 募集人数は20名程度としていたが、超過しても断らないことを基本姿勢にした。想定を超えた応募状況である。当日、体調等の事情で欠席する方もいるかもしれないので、30名を切る参加人数を見込んでいる。6グループに各5～6人と考えている。

【A委員】 中学生と高校生の割合は現時点でどれぐらいか。

【企画調整課長】 32名中、高校生11名の申込みがある。3分の1は高校生である。

【A委員】 グループは高校生と中学生の混成か。

【企画調整課長】 昨年夏に行った未来ワークショップでは、特に中高生で分けることはしなかった。今回の意見交換を実施するにあたり、事前に中高生世代の意見も聞いたところ、中学生は、年上の方々の発言を聞きたいし、高校生も、中学生もいるグループでいい

ということであったので、混成でグループ分けする。

【B委員】 「推し」は人物に対して言うので、「推したいポイント」としないと、中高生世代にはうまく伝わらず、「市長」、「市役所の〇〇さん」という答えが返ってくるのが考えられる。

【副委員長】 開催については広報されるのか。

【企画調整課長】 市報の5月15日号に開催案内を載せる。また、傍聴は可能とする。

【副委員長】 メディアには打たないのか。

【企画調整課長】 先日、プレスリリースした。記事にはまだなっていない。

【C委員】 関係団体や圏域別の意見交換会では、委員の発言は個人的な見解であり、いただいた意見は持ち帰って、全体で討議してから正式に回答することになっていた。しかし、策定委員の役割は「全体共有の際に調整計画に反映したい内容を発表」ということだが、少し踏み込んでいる。中高生世代は非常に素直に信じる。その中高生世代たちに「長期計画の委員が『反映する』と言ったのに書いていない。大人がうそを言っている」と言われるのはつらい。資料のつくりも含めて、事前にきちんと説明していただきたい。

討議要綱の市報版を中高生世代は見ているか。もしくは事前に配られるのか。

【企画調整課長】 委員の意見は、あくまでも委員個人の見解である。「反映する」と言い切ることはできないと思っている。正確に言えば「持ち帰って議論する」だが、子どもたちには「いただいた意見を大事に受けとめる」ことを伝えていただきたい。

市報の討議要綱特集号は、当日、机上に用意する。また、子どもたちに参加決定通知をメールで送る際に、特集号のリンクを張ってご案内する。

【D委員】 タイムテーブルの午後2時から、策定委員から討議要綱についてお題を振るのか。「討議要綱の〇〇について聞かせてください」という振り方をすると、策定委員のバイアスがかかってしまうのではないか。グループそれぞれで対応するのもよいかもしれないが、限られた時間内に策定委員が討議要綱のことをどう振るか、ある程度決めておいたほうがよいのではないか。

【企画調整課長】 前半の30分は、子どもたち同士でフリートークをする。策定委員は、

気になった発言にコメントする程度とし、主に傾聴する。後半で、「今まで出た意見の、ここのところをもう少し聞かせてください」と策定委員から聞いていただきたい。内容は、どういう言葉が子どもたちから出てくるかによる。

【D委員】 前半に出た子どもたちの意見の中から討議要綱に係る話題を拾い上げて、それを振り返すということか。

【企画調整課長】 お見込みのとおりである。意見は出なかったが聞いてみたかったということを委員から投げかける時間にしてもよいと考えている。

【C委員】 担当分野に限った話題でなくてもよいという理解でいいのか。

【企画調整課長】 ご認識のとおりである。

当日は副委員長がご欠席で、10名の策定委員にご参加いただく。委員は1グループに2名入っていただくが、1人で1グループを受け持つ委員もいることになる。

【副委員長】 例えば三鷹武蔵野ケーブルテレビのようなメディアに来ていただいて、市がアレンジした場で中高生世代と市民が闊達に語ったということを放送してもらってはどうか。次回のアクティビティープロモーションにもなる。

【E委員】 メディアに入っていただくことに賛成である。

応募のあった32名の方たちの学校に偏りはないか。一つの学校から大勢が固まって来ているのがメディアに乗ると、いびつな印象を与える。

【企画調整課長】 私立も含めていろいろな学校から申し込んでいただいている。在学であることも参加資格になるので、武蔵野市に住民登録がない方の申込みもある。

【A委員】 私が高校生だったら参加しようと思わない。なぜこんなにモチベーション高く参加していただけるのか。そういう皆さんにどういうことを伝えれば満足して帰ってもらえるのか。

【企画調整課長】 なぜ参加してくれたのか、当日ぜひ聞いてみていただきたい。

今回の参加募集情報は、公立中学校の学習者用コンピュータで配信したほか、市内の私立校も含めて中高生にチラシを配布した。情報が届かなければお申し込みもいただけなかったもので、広報はうまくいったと言えるのではないかと。

## 2. 議 事

(1) 討議要綱への意見を踏まえた個別課題の整理

①小中学校の改築について

教育企画課長及び学校施設担当課長が、小中学校の改築について説明した。

【副委員長】 桜野小学校は、統合以外の要素で急激に人数が増えた。こういうことは今後も市内で起こり得るのか。

【教育企画課長】 桜野小の地域にはもともと公団住宅が建っていた。それがなくなり、跡地に大きなマンションが5～6棟建った。現在、武蔵野市内にあれほどの広大な土地はない。したがって、このような現象は起こり得ないと見ている。

【F委員】 私は二中と六中を統合して、六中の後に二小を入れるという案を直感した。仮設工事等は、とかく不確定な要素が多く、工事費が値上がりするリスクもあるので、この案は経済的なメリットがかなりある。どのくらい節約できるかシミュレーションして、子どもたちの精神的な負担が少なく済むような検討をしてほしい。

【G委員】 子どもたちの数が大きく減ることはないようで、安心した。しかし、武蔵野市の場合、人口そのものが増えたとしても、公立中学校への進学率が下がり、公立中学校が過剰供給になることが考えられる。中学校の建て替えは行財政的に長期に負担がかかる。効率的に進めるためには、中学校のダウンサイジングを図る早期アラームを設定する必要がある。

武蔵野市は、公立学校の一部が借地で、多額の更新料を支払ったという話を聞いた。今後60年間、更新の話は出てこないということであれば、無視していい課題だが、今後の建て替え計画の中で借地更改が必要な学校はほかにもあるのか。あるなら、そこからダウンサイジングを図るという考え方をしていくべきではないか。

【学校施設担当課長】 改築は、児童数のピークに合わせて学校の床面積を決める。その後、人口減少で子どもたちが減ったときのために、スケルトンインフィルという手法をとる。古い学校は耐震化で教室と教室の間の壁を鉄筋コンクリートにしているが、新しい学校は壊せる壁でつくり、将来、複合施設とすることも視野に入れて建築を進める。

【副委員長】 実際の人口よりも進学率が影響するのではないかというのが気になった。

現状、二中、六中に進学するのは地元の何割か。

【教育企画課長】 進学率は中学校ごとに異なる。二中は今年度 58%、六中は 61%だ。

【副委員長】 二中と六中が合併して学校規模が大きくなったら、クラブ活動が楽しくなる。しかも、最新鋭のスケルトンインフィルの学校ができれば、急激に人気が上がって、現状の進学率 60%が 100%になり、小学生が全員市立中学に進学するということも考えられるのではないか。

【教育企画課長】 この 10 年間の傾向を見ると、6 割前後で推移している。100%市立中学に進学ということは、ほぼないと見ている。

【総合政策部長】 私が入庁したばかりのころは、市立中学への進学率は今よりは少し高かったが、六十何%という割合だった。その後、受験率は上がったが、枠が限られているので進学率のドラスティックな変化は起こっていない。

【F 委員】 合併した場合の二小の跡地はどうするのか。

二中の西側の道路 5.4 メートルに歩道をつけるなど拡幅する可能性はあるか。両側が小学校と中学校で、この間が 5.4 メートル、東側が 6 メートルある。防災上あるいは通学の安全を考えた道路の改築はあるのか。

【学校施設担当課長】 区画道路等が入っているかはまだ調べ切れていないが、恐らく最大 6 メートルの幅員で完成すると思われる。調べて、改めて回答する。

【H 委員】 二中の西側の市道は現況幅員 5.4 メートルだ。6 メートルあれば、特殊建築物でも安全条例上の制限はない。東側に下がれば、市有地なので、道路の拡幅は可能である。西側に下がると、民地を買収しなければならない。今のところその計画はない。基本的には改築する中で、道路幅員を広げて道路認定を受ける形をとらざるを得ないが、南に行けば若干民地があり、そこで蛇玉になると 6 メートルの道路と言えなくなる。改築にあわせた通学路の拡幅は、全体の交通体系を見ないとできない。

【副委員長】 土地が狭く、不定形で敷地内に高低差がある二小は、緑の森に戻すのが一番妥当ではないか。

【F 委員】 原風景は境山野公園と同じような緑地だったと思う。

【H 委員】 二小の敷地は市有地だが、その南側の第 2 しろがね公園は借地である。

【副委員長】 その借地のしろがね公園が相続等によってマンションになったら、また人

口が増えるのか。

【教育企画課長】 第一種低層住居専用地域なので、高層マンションは建たないが、高さ制限内のマンションが建てば人口は増える。

【C委員】 武蔵野市は東に比べて西のほうにまだ活用できる用地があると思う。特に農地法改正以降、田畑だったところに低層だがマンションが増えている。子育て世代が結構入って、子どもたちは増えている。また、私が居住している境地区には、日本郵政（旧郵政省）の社宅跡地があるほか、結構広い農地もある。そこにマンションが建つと、二小と境南小の児童数増加と同じ状況になる可能性がある。都市計画的に住戸が増えることと学校をどうするかは、連続性を持っている。部署間で、将来を見通した議論と調整をしておかないと、子どもたちが混乱する。長期的見通しを示すような、検討の材料になるものがあるのかどうかは、どこかでお示しいただきたい。

【教育企画課長】 児童生徒推計は、将来人口推計と連動した形で出したものだ。二小、六中が増加傾向で、新しい住宅の建設あるいは世代交代という要素もある。児童生徒推計は、さらに分析して考えていかなければならない。

【C委員】 健康・福祉分野も、子ども・教育分野も、子どもを増やさなければいけないという方向性で議論している。「子どもを増やす」イコール「教育」機会の確保ということになる。避けては通れないので、将来を見据えた議論が必要である。

【G委員】 武蔵野市は今、人口推計に関するシミュレーションを持っている。そのデータにいろいろなものをリンクさせていかななくてはいけない。人口推計は、1%のずれが2年連続したら見直すという厳しい自主ルールを設けており、人口推計の見直しルールを超えたら、全部のものを見直すことになる。部署ごとの最適解ではなくて、人口推計に基づいて実情がどうなっていくのかを見ていかなければいけない。特に、学校に関しては、ピーク需要に対して供給を決めるとのことだが、ピークアウトしたときに、人口が増えていても子どもたちの需要が減るといった話はよくある。各地方公共団体はピーク時の需要で小学校をつくって、過剰になっている。武蔵野市は、スケルトンインフィルで対応すると言うが、第一種低層住居専用地域にある大きな建物をどう使うのか。小中学生（6～15歳）の人口推計と需要はどう変わるか、10～20年ではなく、40～50年先を考えるべきだ。

借地の小中学校について、まだ答えをもらっていない。

【教育企画課長】 現在借地の学校は、一中と四中の2校だ。あとは市有地に建てている。四中は一部が借地だ。

【G委員】 その建て替えはいつごろか。

【教育企画課長】 一中は現在、建て替え進行中である。四中は、令和8年度に改定する学校施設整備基本計画で決める。

【G委員】 四中は、借地の高額な更新料を払ってでもその土地が必要かどうかから考えたほうがいい。今の二小の土地をどう使うかという話にもリンクする。

一中は借地の更新をしてしまったので仕方ないが、借地してでも学校を増やさなくてはいけない一方で、財政的に負担をかけても資産にはならないので、非常に効率が悪い。公立中の進学率からすると、学校そのものの需要は落ちる。特に四中の建て替え計画は、綿密なシミュレーションを考えなければいけない。

【H委員】 六中、二中エリアは、生産緑地が今後どうなるかということが大きい。第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域で生産緑地があり、土地利用がいい。ただ、道路の計画線 20メートルという中での中高層エリアなので、敷地が大きくても、その土地利用上、全体が一中高、二中高にはなり得ない。ボリューム感として60、200は持っていたとしても、それが全部使えるような状況ではない。

桜野小地域は以前、住都公団（UR）の賃貸住宅があった。URが行革で、賃貸はやめて分譲にする、土地を民営化していきたいという話で、かなり大きいエリアの半分を、賃貸で戻り入居を中心に建て替え、西側半分を民間に売却し、2,000戸のマンションができた。その影響で、統合したばかりの小学校を増築しなければいけない状況になった。

【B委員】 学校規模が大きくなり、子どもたちの数が増えることで、例えば部活動が活発になるというメリットはあるが、一方で、子どもたちへの目が行き届きにくくなり、ケアが難しくなることがある。

【F委員】 スケルトンインフィルの考え方は非常にいいが、建ぺい率を全部使わないで、将来の増築余地をある程度残す、あるいはどちらかに増築できるプランにしてほしい。スケルトンインフィルは、自由度を上げて、規模そのものは変えられない。

【副委員長】 緑地が相続でどんどんマンションになったら、人口は増える。市の財政的

にはいいかもしれないが、緑・環境分野としてはネガティブなことで、難しい。学校は大きければいいというものではないということも考えさせられる。

【I委員】 ただ、少人数学級の数は変わらない。養護教諭や副校長は、学校が大きくても小さくても1名だ。学校規模が大きくなると、目が行き届かなくなることはあり得る。

【副委員長】 仮に武蔵境周辺が人気になったら、地価が上がって相続できなくなり、人口は増えるのではないか。

【G委員】 現に空地があるので、人口は増える。

【I委員】 学校の建物には余裕教室がある。児童生徒数が増えた場合は余裕教室を減らし、児童生徒が減ったらまた余裕教室として使うというバッファを設けている。

【G委員】 学校は難しい。私はニュータウンで育ち、プレハブでしのいでいた。しかし、10年後には子どもたちが減り、空き教室だらけになってしまった。財政投資が不適切だった。学校は、用途転用できない場所にある。一種住専の住宅地にある大きな建物は、転用するとしたら高齢者向けの福祉施設くらいではないか。武蔵野市の公立学校は、過剰床になる可能性が高いが、将来の予測は無理だ。どれだけフレキシビリティをとっておくのかということに尽きる。

#### (1) 討議要綱への意見を踏まえた個別課題の整理

##### ②財政シミュレーション

財政課長が、財政シミュレーションについて説明した。

【副委員長】 グラフの示し方について。縦軸は10億円を1つの尺にするか、ゼロからの尺としないと、ミスリーディングになる。国庫支出金は、10億円が2つの尺になっているが、都支出金は1つの尺だ。10億円の幅を同じにすると、わかりやすくなる。

市税が歳入のほとんどということだが、市税のシミュレーションをどう考えたらいいのか。

【G委員】 武蔵野市は今まで小中学校の投資的経費が一段落していたが、これからの30年間ではその建て替えによる支出のピークが来る。それを乗り越えられるかどうかを財政シミュレーションしている。支出のピークを予見して、財政にゆとりがあるときに積み立てた基金をはき出し、基金がマイナスになるのかどうかを財政課は心配していたが、



今回のシミュレーションのメインシナリオでは、100 億円は残せる。虎の子を残した状態で、30年間の建て替えのピークを越えることができる。

市債は、お金が足りないから発行するのではない。小学校を建て替えると、建物耐用年数の 60 年間は市民が均等に費用負担するという観点から、税金を払う現役世代が 1 年間で負担するのではなくて、長期的にその負担を平準化するために市債が発行される。ポイントは、市の今の予算で小学校の建て替えのお金を返すだけの余力があるかどうかということだ。年間に幾らぐらいだったら小学校の建て替えや公共投資の資金に対して返済していけるのかという返済原資があつて、それに対して投資金額が出て、その割り算で投資回収年数が出る。それが 60 年の耐用年数の内側だったら、健全な投資計画だったということになる。80 年、100 年たって、建物はボロボロで使えないのにお金が返済し切れていないのが、金融の考え方で言う破綻シナリオである。

財政シミュレーションを求める声は、市議会議員からも、市民からも大変多く、財政シミュレーションを一定のシナリオで見せることは避けられない。ただ、金融では、シミュレーションを 30 年間の予測値で見ることはしない。10 年間は見るが、その後はインフレなどは考えず、長期平均的に横伸ばしで考える。シミュレーションは返済能力を見るためのものだからである。しかし、市民や市議会議員は、30 年後の財政は大丈夫なのかという議論で、実額を予測しようとする。それにはインフレ率を置かなくては行けないが、30 年間のインフレ率は、合成の誤謬で大きくずれる。結果的に、誰も正しい数字は追えないので、あくまでも一シナリオだということを示している。

今後 30 年間の投資ピークのときに、武蔵野市には今までためていたお金を全部はき出すことなく、100 億円残した状態で乗り越えられる、だから過度な心配は要らないと提示することが重要である。

**【副委員長】** イメージとしては毎年 700 億円ぐらい出ていて、今積み立てているのは 600 億円ぐらいあるということか。

**【財務部長】** おっしゃるとおりだ。

**【D委員】** 財政シミュレーションは、30 年後を見て、いかに市債を出すかにかかっている。最終ポイントで 100 億円残るとしても、市債残高がそれを超えていけば、赤字ということになるのではないか。以前、現在の市債の利子分が 1 億円という話があつた。毎年新たに市債を増やすと、今後金利が上昇していけば、利子分が増える。市民としては、元本と利子分を別に表示していただいたほうが安心できる。利子が増えていく場合に、市債

をどんどん増やしてよいのか。

【財政課長】 市債は、例えば個人の住宅ローンとは少し異なり、変動金利制ではなく固定金利で借入れをする。現状、金利が上がってきており、利子の負担分が今後徐々に増加傾向になると思われるが、例えば30年前の起債は4.4%という高利率だった。7%だったこともある。現行は0.6~0.7%で20年ほどの借入れができています。

反面、市債を借りないと、現年度の人たちが学校を1棟建てる費用を負担しなければならなくなる。長く使う施設は、世代間の公平性ということで、現在の世代と未来の人が負担してやりくりする。武蔵野は財政が豊かであるが、そういう理由で市債を一定額活用している。

【D委員】 いつも「世代間の公平性」というご説明がある。しかし、例えば30年たったときに世の中が大きく変わって、そのときの人たちが新たに負担しなければならないことも出てくる。世代に分割していくことが、市の全体の財政を見たときに一番よい方法だということの検証はあるのか。そうすることが一般的な考え方なのか。

【財務部長】 例えば学校改築は、1校に約50億円かかる。大体2年間かけるので、単純計算で1年間で約25億円かかることになる。市債、借金が無いにこしたことはないが、もし借金をしないと、向こう何十年も使うことになる学校施設に対する令和5年度の25億円の支出を、令和5年度に住んでいる武蔵野市民だけに全額負担していただく形になってしまう。これは本当に公平なことなのか。市債は75%借りられるので、例えば20億円借りることができれば、令和5年度の負担は5億円で済み、残りの20億円でほかの事業ができる。逆に、その20億円を学校改築に使ってしまうと、ほかの20億円分の事業ができなくなる。投資的経費は短期間のうちに一気にかかるので、平準化は必要だ。今回のシミュレーションにおける借金の返済の規模は、もっとも借金残高が高いときでもその時点の市税収入見込みの4.5%程度である。なお、今現在は非常に借金が少なく、1.9%だ。

公共施設の大更新時代を迎えるこの30年は、武蔵野市の今後100年間の中で一番お金がかかる時期であると考えます。金利も安いこの時期に、平準化のために一定の借金をすることで、この30年間を乗り越えるころには借金は減りはじめ、基金は増えるものと見込んでいる。今回提示しているのは30年間の長期財政シミュレーションだが、これを50~60年スパンで見ると、また元の水準に戻っていくというメッセージについても出していくことについても検討する必要がある。

【C委員】 将来にわたる世代もその恩恵にあずかるために負担する。それには武蔵野市

の高い税金を払える人が一定数いなければいけない。自立した納税者に住んでもらうためには、市は市民がその税負担に見合う生活環境や行政サービスを受けられるようにしなければいけない。今までは、高齢者が増えるということで高齢者福祉を充実させてきた。医療では、病床を増やすための努力をしてきた。今度は子育て支援も考えていかないと、子育て世代が住んでくれない。他市町村でも、子育てに主眼を置いて、子育て世代を取り込もうとしている。世代の公平性を言うのであれば、将来の人たちも、それに見合うだけのサービスを受けるために市は何をするのかというメッセージを長計で出す必要がある。高齢者は、一定の時期を過ぎると減る。子どもを増やさないと、人口は増えない。子育て支援は武蔵野市として打ち出すべき大きなキーワードの一つだ。だから市長も給食費の無償化をおっしゃる。

幾ら 100 億円あるから安心だと言っても、いろいろな議員から、人口推計がおかしいという意見が出されるのは、納税できる市民の確保ということがどうしても気になるからではないか。

**【財政課長】** 30 年間のちょうど半ばあたりから市税は 10 億円ほど減があると見込んでいる。投資的経費など様々な費用に関して、シミュレーションで相当額を示しているが、その基となるのが市税である。武蔵野市は約 6 割を市税で賄っている。一番の核である市税がブレると全体がブレてくる。なお、子育て施策など長期計画に掲げる具体的施策は、シミュレーションではなくて 5 年間の財政計画でその事業（の財源）を裏づけている。

**【F 委員】** グラフは、30 年後のボトムが見えたところで切れているので、このままの角度で奈落の底に落ちていくような印象を受ける。50 年後までシミュレーションすれば、立ち直っていくことが見えるようになる。建て替えは無限に続くわけではない。学校は新しくなり、教育環境がよくなる。微に入り細に入りシミュレーションせずに、この基金の残高を説明するだけでいいのではないか。

**【副委員長】** 2040 年あたりにお金がたくさん要るのは何があるのか。

**【財政課長】** 市庁舎の建て替えて、百数十億円計上している。

**【G 委員】** これは市債で負担の平準化を図っているから基金をそんなに取り崩さなくてもいいという話であって、基金を取り崩したら、あっという間になくなる。今の基金の残

高は 550 億円で、30 年間の累計の投資的経費の資金計画は 3,523 億円である。そのうち 1,000 億円強が学校で、それ以外に公共が 750 億円、大規模が 659 億円、インフラ・道路は 721 億円、公園が 327 億円なので、かなりの投資をしていく。基金だけ見てもしようがなく、財政シミュレーションを示すべきと言われるので、必死になってつくった。

人口推計については、かなり精緻につくられている。財政シミュレーションは人口推計の数字が変わると全部変えられるように、データリンクもとっている。現状と 1%のずれが 2 年連続で生じたら、人口推計を見直す自主ルールは厳し過ぎるので、私は 3~5%が 2 年連続したら見直すのでいいのではないかと思っている。いずれにしても、議員をはじめ市民の皆さんに理解してもらう必要がある。大事なのは、あくまでも一シミュレーションにすぎないということだ。

今回、新たに経常収支比率は 88%の中におさめ、逸脱したらすぐ財政シミュレーションを見直すという厳しいルールを検討しているが、形式収支（一般的な黒字・赤字）や経常収支は全く影響しないとはいえ投資的経費を膨らませてしまったり、学校給食費無償化のような政策的なことを入れたりしたら、収支は一気に悪くなる。何個かその条件を設定して、この中にヒットしたら財政シミュレーションは見直し、公共投資計画等も全部見直しをかけるという仕組みをつくるのが、建設的だ。そして、市民は安心していいというメッセージをわかりやすく出す。

日本で財政力指数が 1.5 あるのは、原子力発電所やダム、国際コンテナターミナルを持つ市町村ばかりで、首都圏で 1.0 を超えるのは工業団地を持つ浦安市ぐらいだ。住民税と固定資産税で財政力指数 1.4 を出せる市町村は、武蔵野市以外にない。武蔵野市の財政が崩壊するときは、日本の公共団体はみんなアウトになっている。だから、過度に心配する必要はないが、放漫経営はできない。学校給食一つとっても、年 4 億 8,000 万円を続けたら支出は 50 億円、100 億円となるという議論ができる仕組みをつくる。これが武蔵野市の財政計画には絶対必要だ。

**【財政課長】** 少し補足すると、どのシミュレーションも基本的に歳出は変えず市債と基金のバランスを変えただけでグラフの形は大きく変わる。基金の枯渇を避けるためには、市債をいかにうまく使うかとなる。利子分を少なくするには、金利が低いときにできる限り借りることとなる。このようなシミュレーションをできるのは武蔵野市だからこそである。

【C委員】 今、シミュレーション縦軸の議論をしているが、横軸のスピードが上がっている。国立社会保障・人口問題研究所の人口推計でも、少子化のスピードが早まっているという非常に危機的な状況が示されている。縦軸は各種の安全弁が効いて、武蔵野市は多少のブレがあってもさほど心配することはないが、横軸のスピードから考えると、少子化は急速に進む。今から子どもが生まれたとしても、その人が成人（納税者）になるのは18年先で、それまでは扶助費と義務的経費が増えるというので、国は今、異次元の少子化対策と言わざるを得ない状況に追い込まれている。武蔵野市は今そういう状況にはない。先送りしても安心だが、その先送りのところにいる人を我々は見えない。しかし、そのときに今の市税を払える状況の人が一定いるということを我々は前提にしている。

【G委員】 武蔵野市は約75%が固定資産税である。これから導きだせる一般的な戦略は、吉祥寺の駅を中心として地価を上げ、その波及で中央地区、境地区の地価を上げるというものになるだろう。しかし、行政としてこのような戦略は取れないだろう。社会福祉政策というスタビライザーを効かせて、安定的な人口を構築する。そこに子育ての議論が入る。税収という観点から本当に焦点を当てなくてはいけないのは市税を払う人たちだ。そこにターゲットを絞る施策を展開しろと言うつもりはないが、子育て世代が入ってきて、活気あるまちをつくるのが市民の求める姿だ。そこに公共投資計画を入れて、まちを維持していけばいいのではないか。

【F委員】 吉祥寺の駅前広場と三鷹駅の北口広場、水道事業は都市基盤分野だが、どのぐらいの規模で計上されていないのかわからない。ただ、投資したことの回収もある。駅前広場は都市経営という意味で重要だし、水道事業はライフラインという意味で重要だということを考えたほうがいい。

【H委員】 吉祥寺駅南口の広場については、残った土地買収と整備費がかかるが、ほぼ基金で賄える。今後は公共交通の処理の問題だけでなく、まちづくりの意味での防災化等を議論する。再開発の話は百億円単位の話になる。市の負担はその15~20%と見ている。三鷹駅の北口は、公共広場を広げるという話であり、再開発といっても吉祥寺駅南口ほどの規模感ではない。

水道事業は、あくまで交渉で、相手があつての話であり、公営企業の負担を市が本当に払うべきなのかという議論も必要になるので、この時点ではカウントすべきものではない。

いと判断している。

【副委員長】 非常にいい勉強になった。いかに稼ぐかという長期計画を立てればいいと思う。要は市税を払える人を増やす。そして、子どもを持った人にも魅力なまちにするのがサステナブルだ。

## (2) その他

### ①調整計画案に関する市議会議員との意見交換について

【副委員長】 意見交換は前回同様に進めるということか。

【企画調整課長】 六長のときは、討議要綱に関する意見交換は会派別形式、計画案についての意見交換は全員協議会形式だった。全員協議会は全会派が集まって行うので、ほかの会派の意見も一緒に聞いている。

【副委員長】 そのほうが、同じ議論が繰り返されなくていい。策定委員会としては会派別形式が望ましいが、議会側が全員協議会でということであれば、それでいい。

【G委員】 前回、私たちは市民の一人として議員に向き合っているのに、行政スペシャリストさえ知らないような非常にテクニカルなことを質問された。そういうときは、どう答えるのか。主に策定委員が答えるが、あまりにもテクニカルな質問が出たら、担当分野の事務局に意見をもらうということにしていかが。それとも、会合の趣旨から逸脱した質問は事務局と確認して後日返答するということにしたほうがいいか。

【企画調整課長】 基本的は策定委員と市議会議員との意見交換である。我々は議会の場で常時対応しているので、委員個人の見解を一度述べて、持ち帰って議論ということでもいいと思う。

【I委員】 行政的な話は副市長がフォローする。

企画調整課長が5月20日(土)の市内視察の集合場所と時間の確認を確認して、副委員長が武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会第5回作業部会を閉じた。

以 上